

# ネットスケープ ヒストリーで 新聞社の ホームページを 探検してみたが



## 第3回 続・自動収集ツール編

illustrator : Kaori Takahashi



インターネットなら極地探検もラクラク？

波乗野郎：(株)ピー・ユー・ジーが開発したホームページ自動収集ツール「PerMan Surfer 波乗野郎」のこと。あらかじめ指定しておいたURLのファイルを自動収集してくれるので、オフラインでホームページを見ることができる便利なツール。本誌CD-ROM「Mac PerMan Surfer」「WIN PERMAN」に収録。

それは某月某日の編集部から始まった。今回の探検先として狙っていた某携帯端末の借用がさる事情から不可能になった。これを受けて、編集者M嬢と探検隊長の私は次の企画を練っていたのである……(BGMは「スパイ大作戦のテーマ」)

「でも、インターネット探検隊っていうわりにはウェブそのものの探検って、やってませんね」と編集者M嬢。

「う～む、そう言われれば……」と私である。

「やっぱりここは面白いウェブを探すとかが、誰も知らない世界の国のページを探してみるとか……」

「例えば、南極とか？」

「ええ、いいですね💡」(と20W電球くらい明るさ)

「確か、ニュージーランドかどこかの国の基地にカメラがあって、ほとんどリアルタイムで南極の映像が見れるんだよね」

「あ、それ、いいです💡💡💡💡💡(をを、突然100Wの変貌！)

「でもねえ、今って南半球は冬でしょ。

で、南極は白夜の反対で年中夜中みたいなものなんだよね。だから画像は真っ暗な時が多いわけ」

「ええ～？ それじゃ駄目ですよ※。」(電球、切れました……)

という具合にお互い煮詰まったところで、M嬢が意外な点を突いてきた。

「そういえば、先月号の原稿で変なところがありましたよね？」

(げげ、どこだろう?)

「え？ うそは書いてないけど……」

「あ、そうじゃなくて『波乗野郎』が取ってこれないページの例が立花隆さんのものだったでしょ？」

確かに、あれはインデックスページの上のディレクトリーにコンテンツページが置かれているという特殊な例だったが……。

「あ、そうだけど……何か？」

「いえ、その、村野さんってああいう硬いのは読まないだと思ってたもので、ちょっと意外だったんです」

「いやあ、僕もいちおうライターのはしくれ※だから、ああいう硬派なもの見るんで

すよ。ふはは」

「ノーテンキなだけじゃないんですね？」

う~む、読者からそう言われるのはしょうがないが、担当編集者まで……。

「いや、ノーテンキなのは世をしのぶ飯の姿。実はテレビはニュースしか見ないというくらいのインテリなんです！」(う~む、そうかあ?)

「インテリっていうと、ああいう文字の多いページもきちんと読むんですか？」

「まっモノによりけりだね。ダイアルアップだと、ブラウザでテキストをセーブしてから回線を切って、それからテキストファイルを読んだりするけど、確かにちょっと面倒だよな」(実際は飛ばし見しちゃって、じっくり読むなんてことはほとんどないのである)

「そういう面倒くさがるのインテリの方にぴったりのツールがあるんですけど」

(キミキミ、インテリはいいけど「面倒くさがり」はどうか?)

「ん?『波乗野郎』みたいなの?」

「Netscape Historyというイタリア生まれのソフトです。『波乗野郎』って指定したURLの下のページを持ってくる一括処理型ですけど、こっちはネットスケープがため込んだキャッシュを、あとからローカルで見れるんですよ」

「ほお~、つまり自分がアクセスしたページだけがマシンの中に残って、電話を切ったあとでもそれが見れるというわけだ」

「ええ、これも結構便利でしょ?」

「じゃ、いちいちテキストでセーブしなくても大丈夫というわけかあ……」

「どうでしょう?今回はウェブのローカルビューア第二弾ということで……」

というわけで、ダイアルアップユーザーのためのお便利グッズ第二弾は決定したが、同時に私のインテリ的(しかもケチな)側面を実証しなければならぬという大変なことにもなってしまったのである。う~む、インテリねえ……。

## 🌀 Netscape History をゲットする

さて、探検の第一歩は必要な装備の調達からだ。

まず、教えてもらった「info-mac」から問題の「Netscape History (ftp://ftp.iij.ad.jp/pub/info-mac/comm/inet/web/ntscp/netscape-history-201.hqx)」をダウンロードする。FTP用のクライアント「Anarchie」でも、ネットスケープでも大丈夫だ。

取ってきたファイルをStuffit Expanderで解凍すると「Netscape History 2.0.1」というプログラムとHTMLで書かれた「readme」そしてシェアウェアの登録プログラムが表れる。最近の説明はほとんどHTMLなんだな~と思いながら、ネットスケープで「readme」を開く。

説明が英語なのでちょっと面倒だが「readme」を斜めに読むと、使い方は非常に簡単。基本的にはネットスケープなど(ちゃんとMSのインターネット・エクスプローラにも対応している)でネットサーフィンしたあとにこのプログラムを立ち上げるだけ。すると、これまでにため込んだキャッシュを整理したあとで自動的にブラウザが立ち上がり、見せてくれるようだ。

最初に行うべき設定も、ブラウザの場所の指定と「History folder」というキャッシュから作り出したファイルの保存場所を決める程度。再生(?)できるページ数はネットスケープのほうで指定したキャッシュのサイズによる……とのことである。ちなみに、これは8ドルのシェアウェアなので気に入って使い続けたければ料金を支払う必要がある。

さて、「readme」を読む限りは、どうやらこれまでにためたキャッシュがありさえすれば中身を見ることができそう。ということは、これを悪用(?)すると他人がこれまでどんなウェブページを見ていたか、ばっ



自動収集ツールは面倒くさがるのインテリにはぴったり?

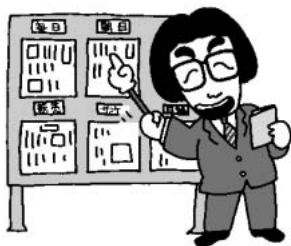


シェアウェアを使い続けるときは使用料もきちんと払おう。

キャッシュ: データ転送を速くするためにためこまれたデータ。  
Stuffit Expander: ドラッグ&ドロップで解凍できるマック用のツール。本誌CD-ROM「Mac Stuffit Expander」にも収録されている。  
シェアウェア: オンラインから無料でダウンロードできるが、使用してみても納得したら、そのソフトの開発者に費用を支払うというシステムで提供されるソフトの総称。



新聞社のホームページを探検してみた。



各紙の社説をWWWで比較してみるのもいいかも。

ちり見れてしまうという.....おお、コワイ。と、とんでもない方向に脱線する前に今回の趣旨に従って、まずはインテリが読みそうなウェブを見にいってみよう。

🌀 新聞社のホームページを順番に探検してみたが.....

日本のインテリにとって新聞は朝ご飯の味噌汁のようなものである(もっとも私はあまり味噌汁好きじゃないが)。となるとテレビはお茶で週刊誌は漬物.....う~ん、モノによっては納豆に近い? ま、インテリ代表のようなことを言ってしまうとあとが大変なことになるので、それは置いてえ.....とりあえずNTTの「ニュースインデックス」ページ(<http://www.ntt.jp/WHATSNEW/news-j.html>)から新聞社などマスコミ関係のウェブページをピックアップし、早送りで見ってみることにする。

まずは、養子として米国に出かけているという話もある(?)朝日新聞(<http://www.asahi.com/index.html>)。ここはミラーが5つもあるので、自分のつないでいるプロバイダーか近そうなところを選択する。これがインテリの良心だ(?)なんだかね~)

なんせ新聞紙面の情報がほとんど入っているような本格派なので、手当たり次第にボタンをクリック。と、どうやら「ニュース速報」の下のカテゴリーはそれぞれ1本の長いファイルになっていて、これをゲットすれば個別のニュース項目はあとからじっくり読めそうだ。「特集ページ」も何か読物がありそうな気がするが今回はパス。

アクセスした時間が悪かったのか、読売新聞(<http://www.yomiuri.co.jp/index.html>)は時間切れで落とされてしまった。これでは手の打ちようがないので、次へ。

日本経済新聞(<http://www.nikkei.co.jp>)もやたらにデータ量が多い。チェックするとしたら産業情報が掲載されている「サイバーニュース(<http://web.nikkei.co.jp/cyber/news/index.html>)」か? ここ

もスクロール画面なので、Netscape Historyが活躍するはず。特に表組みを使った「ホームページランキング(<http://web.nikkei.co.jp/cyber/ranking/junyok1.htm>など)」のようなページでは、テキストでセーブすると表がバラバラになって意味不明な画面になってしまう。こういうときこそローカルなウェブブラウザが役に立つのだ(って自分が発明したわけじゃないのに、イパってどうする?)。

毎日新聞はどういう理由が分からないが、ホームページが2つある。「Jam Jam(<http://www.mainichi.co.jp>)」は新聞社としては柔らかめの演出だがまだまだ新聞っぽい。これに対して「AULOS(<http://aulos.mainichi.co.jp/>)」のほうはいかにもウェブユーザー向けの内容だ。こちらのほうがグラフィックスが多そうなので、ページを取り込んでおいて、あとでじっくり見るには向いているかもしれない。

次に産経新聞の「産経Web(<http://www.sankei.co.jp/>)」。ここはやたらに分類が細かいので、いちいちボタンをクリックするのが面倒。しかし「主張(<http://www.sankei.co.jp/paper/today/editorial.html>)」という社説のページを見たら、朝日、読売、日経の社説にリンクが張ってある。このリンクをうまく使えば、「いやあ~、

についての××新聞の社説。あれはいかんね。それに比べると.....」なんつーそれらしき発言もできるというわけだ(ああ、馬鹿なインテリもどきのこと言っているな~、私.....自己嫌悪)

ついでに前回の探検で問題になった(といっても内容のことじゃないけど)立花隆氏の「同時代を撃つ(<http://www.ijinet.or.jp/kodansha/wgendai/>)」のコンテンツページにも出かけてみたが、どうも中身が週刊誌のコラム臭い(そりゃ、そうだ。「週刊現代」提供なんだもん)。いわば「同時代の裏を読む」という感じで面白いこと



は面白いが、量的にはコマギレ状態で、ずず〜とスクロールというわけにはいかない。そこでリンクから「東大先端研・立花研究室(<http://kyaku1.rcast.u-tokyo.ac.jp/>)」に出かけると、ここがすごかった。

文章の量が多いせいもあるが、ファイルの読み込みには時間がかかる。なぜかという、どっかの(といっても東大関係者であるのは明らかだ)教授のかい写真なんかが入ってるから。企業のウェブではとくに不評で終わってしまったウェブデザインである。ま、ありがちな学内事情というやつだろうか。どうでもいいけど、立花さんって「客員」じゃなくて「キャクワン(kyaku1)」なんですね、ふむ。

## ⑥ いざ、キャッシュをチェック

以上、いちおう主だったウェブページをブラウズしてみたところで、いよいよ集まったキャッシュをNetscape Historyで再チェックしてみよう(使用方法はこの連載の最後のページを参照)。

一旦回線を切り、ネットスケープを終了してから、おもむろにNetscape Historyをダブルクリックして立ち上げる。と、普通のプログラムと同様、ネットスケープ本体の置いてある場所を指定するようにダイアログボックスが出てくる。

このボックスの下の方にはデフォルトで、プログラムが終了し次第(つまり、キャッシュの整理が終わったら)そのままネットスケープが立ち上がるように設定するラジオボタンがクリックしてある。これはこのままのほうが便利だろう。

次に「History folder」の場所の指定を求められるが、これは適当な場所を選べよ。

これが終わるとわりと大きなウィンドウが開く。しばらく見ても何も起こらないので中にあるボタンをクリック……すると、

なんとプログラムが終了してしまった。あれ?

再度挑戦してみると、どうやらこのウィンドウの下のところ「プログラム実行中」という意味の英語が書いてある。で、よく見れば、先ほど私が押してしまったボタンは中止ボタンだったのだ(ふつう、よほどのおっちょこちょいでなければこんな失敗はしないと思うけど)。

ぬぁ〜んだ、というわけで今回はそのまま見ていると、これがなかなか動かない。しかし、ここで短気を起こしてしまってはモトモコもない。じっと我慢である。

しばらくしてキャッシュを組み替える作業が始まり、変換されたキャッシュファイルの数が増えてくる。よしよし……と思っていたら、途中で「メモリーが足りません」と言われてしまった。このプログラムが扱うキャッシュの大きさはネットスケープ本体で指定してあるキャッシュサイズによるので、これがかなり大きな場合はNetscape Historyのアプリケーションサイズも大きくしておいたほうがいいみたいだ。

一連のキャッシュ変換作業が終わったところで、自動的にネットスケープが立ち上がり、これまでにアクセスしたウェブページのリスト「Last Visited Pages」が表示される。

ページタイトルのほうは日本語でもきちんと表示されるのだが、残念ながらアクセスした時間と思われる部分が文字化けしている。しかし実用には問題ないだろう。

このページから適当なウェブページタイトルをクリックすると、見事、そのページが表示される。フレームを使っている「Jam Jam」もちゃんと表示できた。

リンクの部分も、以前にクリックしてリンク先を表示したことがあれば、当然、現在表示しているページのポインターからジャンプすることができる。しかも(ローカルファイルだから当然だが)画面表示が速い! これはなかなか快適。



文字量の多いページをオンラインで読むのはとても大変。



ネットスケープヒストリーのアプリケーションサイズは大きめにしておこう。



波乗野郎か、ネットスケープヒストリーか？ 使用目的によって使い分けよう。



つまらないページはよりつまらなく、おもしろいページはそれなりに？

このほかの自動収集ツール

Free Loader (WIN)

<http://www.freeloader.net/>

Net Recorder (WIN)

<http://www.xaxon.co.jp/public-html/top.j-htm>

さらに回線が生きていれば、「Last Visited Pages」の右端の「Real Link」をクリックすることで、いつでも本物(?)のサーバーにアクセスできる。

考えてみると、先月紹介した「波乗野郎」では指定したファイルを取り寄せているあいだ、なんの画面も表示されず、どういう中身なのかが分からなかった(ま、それなりに待つ楽しみもあるわけだが)。これに対してNetscape Historyでは、ウェブページを少なくとも一度は表示しながらながめることができる。

どちらがよいとは一概には言えないが、好きなウェブが決まってい、これが更新されるたびに新しい内容を持ってくるのであれば、前回紹介した「波乗野郎」を利用したほうがいい。しかし、とりあえず気になるページをスキャンしておいて、あとからじっくり中身を確認したいという場合にはNetscape Historyを……ということになるだろう。う~む、あまりに当たり前の結論で申し訳ない。

### ◎ ネットスケープヒストリーの 上手な利用法は？

ところで今回の探検で、肝心のウェブの中身はどう見えたのか？ Netscape Historyを使った甲斐はあったのか？

結論から言えば、つまランところはよりつまランへ、その“つまらなさ”がより一層強調されるのである。どういうことかという、「こりゃ面白そう」と思ってあとできちんと読んでみると中身が薄い。そうなるとう「えい、せっかく取り込んだのに、メモリーの無駄だあ！」と怒り倍増。まさに苦勞がアダ、なのである。

では、面白いところはより一層面白かったかという、実はこれがそうでもない。

確かに文章的には面白いものもあるし、読めばそれなりにタメにはなるのだが、画像と文章がうまく組み合わせたり、リン

クの妙で平板な文章表現以上の効果を出しているところはなかった。これだったら別にウェブじゃなくてもメールでいいじゃん……である。

確かに読ませる文章力は基本だけど、ウェブの世界ではそれだけじゃ駄目なんだよね~。そこんこ、もうちょっと勉強してもらいたいものである>関係者(と書くと、「じゃ、やってみてよ」と言われそうでヤバいのだが、事實は事實ね)。

さて紙面も残り少なくなってきたので、そろそろマトメをしておこう。

実はNetscape Historyはある種の作業にはうってつけなのだ。ふつうのオンラインアクセスでこういうウェブページについて文章を書くときには、画面の左側にネットスケープのウィンドウを開き、右側にエディターを開いて、左のウェブ画面を見ながら右のワープロ画面に文章を打ち込むという段取りになる。おそらく、ほとんどのウェブ関係のライターはこうしたやり方をやっているはず。だが当然そのあいだ、回線は接続しっぱなしで、ダイヤルアップであればどンドン電話料金とプロバイダーへの接続料金が上がるということになる。情報社会とは言うものの、歴史的にも原稿料は物価上昇をしのぐほど上がっていない。加えて電話料金と接続料金が掛かるとなれば、こういったやっかいな原稿をきちんと書こうというライターがどれほどいるか……。

批評なくして文化なし。これが日本のウェブ文化の水準が上がらない元凶なのである！ なんて、ダイヤルアップ派のウェブ批評担当諸兄にご同情申し上げつつ、「ウェブ探検のお供にはぜひNetscape Historyを」とお勧めしながら、今回の探検はおしまいであります。



## Netscape History を入手する

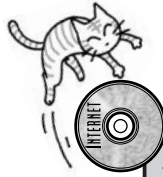
入手先 <ftp://ftp.iij.ad.jp/pub/info-mac/comm/inet/web/ntscp/netscape-history-201.hqx>

① Netscape History をダウンロードする。

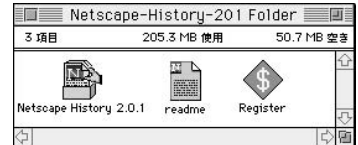


② メニューの「ファイル」から「save as (保存)」を選び、適当な場所にダウンロードしたファイルを保存する。

マックの場合は「Netscape History-201.hqx」、ウィンドウズの場合は「Netscape History-201.zip」という名前前でファイルが作成される。



③ StuffIt Expander (MAC)、LHASA (WIN) などで解凍する。



④ 解凍されたファイルを開いたところ。

④ ダウンロード完了。

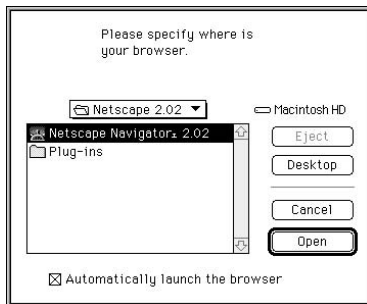
解凍ツールは本誌CD-ROMに収録されています

マッキントシュの場合：Stuffit Expander 収録先：  MAC  Stuffit  
ウィンドウズの場合：LHASA 収録先  WIN  LHASA

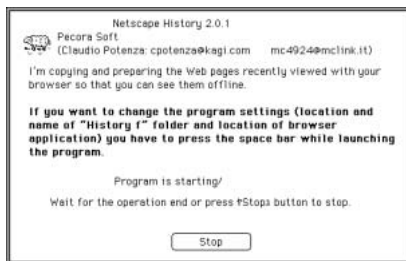
## Netscape History を試してみる

① Netscape History を開く。

② 使用するブラウザを設定する。

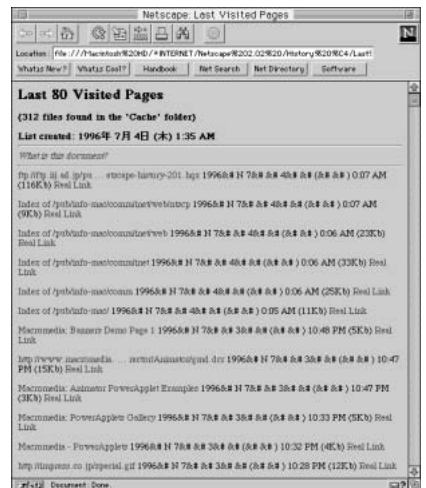


④ 前の画面で「save」をクリックすると、この画面に変わる。

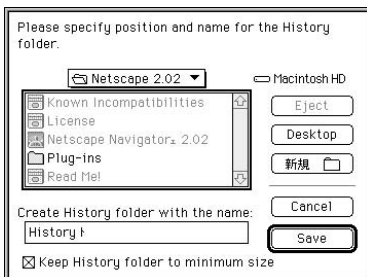


⑤ ここで「STOP」を押すと、キャッシュの収集が中断されてしまうので注意。

⑤ キャッシュの収集が終了すると、この一覧が現れる。あとは見たいところをクリックすれば、オフラインでゆっくりとホームページがブラウズできる。



③ Netscape History のインストール先を指定する



⑥ ブラウザーのキャッシュが多く設定されている場合は、ネットスケープヒストリーの使用サイズを大きめに設定しておく。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)